月刊ととろ

Iwaki National Hospital

独立行政法人国立病院機構
いわき病院

第201号
令和3年1月発行

National Hospital Organization Iwaki National Hospital

信条

- 患者さま本位の医療を行います
- 患者さま及び家族の生活を大事にします
- 科学的根拠に基づいた質の高い医療を提供します

年頭のご挨拶

皆様、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

昨年 4 月の月刊ととろには「いつもと違う春」というタイトルの一文を寄稿しましたが、この年末年始もまた「いつもと違う」生活になった方が多かったことと思います。外出や帰省を控え、自宅でテレビやビデオ、インターネットを眺めて過ごす時間が長かったのではないでしょうか。最近はいわき市内においても、新型コロナウィルスの感染者数がじわじわ増加しています。知り合いが感染したとの情報に接して驚いている方もいることでしょう。危機はまさにすぐそこまで迫っています。

この時期恒例の音楽イベントも様変わりしました。大晦日の紅白歌合戦は無観客で開催されましたし、元日のウィーンフィルハーモニー管弦楽団のニューイヤーコンサートも同様でした。本来なら聴衆の手拍子で盛り上がるはずのラデツキー行進曲もやや「拍子抜け」した印象でしたが、がらんとしたホールの中では指揮者や楽団員のモチベーションも今ひとつだったのではないでしょうか。

私の身辺においても、昨年後半からは多人数が一堂に会して催される会議がめっきり減少し、代わりに PC やタブレットを用いたオンライン会議に参加する機会が多くなりました。一度慣れてしまえば案外簡単なものですが、それでも直接顔を突き合わせて話す場合に比べて丁度良いタイミングで反応を返すことが難しく、隔靴掻痒の感は免れません。早く元のような会議が開催出来るようになって欲しいものですが、当面は新しい様式に習熟していくほかはなさそうです。

さて、ともすれば新型コロナウィルスの話題に隠れがちですが、今年は東日本大震災から 10 年目の節目に当たります。言うまでもなく当院は震災により甚大な影響を受けました。今日こうして小名浜野田に移転している状況を、10 年前には一体誰が想像していたでしょうか。新型コロナウィルス対策に忙殺される中、あのような災害が再び生じることなど想像したくもありませんが、自然は忖度してくれません。確かに新病院への移転により、発災初期の安全性は格段に向上しましたが、その後の診療業務継続にはなお多くの不安材料があります。皆様の中には日頃より災害時の備えを整えておられる方も多いことと思いますが、可能であれば災害時に病院の診療機能維持のために何ができるかも考えてみて下さい。令和 3 年が安寧に経過することを祈念しております。

院長：関　晴朗

新型コロナウイルス感染症検査における取り組み

新型コロナウイルスの猛威は、今年に入ってからもなかなか衰えを見せません。

発熱やせきを伴う症状があれば、風邪なのかインフルエンザなのか、もしかして新型コロナウイルス感染症なのか、症状だけで見分けることは非常に困難です。

当院では、医療提供体制を維持・確保するための取り組みを進め、様々な感染予防対策を行っているところですが、季節性インフルエンザ流行期に備え、かかりつけの患者さん方が安心して相談・受診できる体制の 1 つとして、新型コロナウイルス感染症検査である抗原検査と核酸検出検査（PCR 検査）が昨年 12 月から院内で検査出来ることになりました。

新型コロナウイルス感染症は上気道から感染するため、感染初期には鼻咽頭をぬぐって検査することが最も信頼性が高いと考えられますが、採取する際に飛沫による感染のリスクが高くなりますので、感染予防策を徹底したうえで行う事が重要となります。また、適切な部位から適切な量を適切な方法で採取することが正確な検査結果につながります。

そこで、適切な対応が出来るよう、新型コロナウイルス疑似症感染者を想定して検体採取から検査測定までの模擬訓練を行いました。鈴木副院長指導の下、医師、看護師、臨床検査技師など多職種が参加し、接触や飛沫予防対策を意識した個人防護具の着脱方法や検体採取方法などを手順に沿って確認しました。

専用の検体採取室内には、飛沫予防のための検体採取 BOX や換気設備などが整えられ、感染に留意しながら処置を行うことが出来るようになっています。初めて検体採取を行う参加者は、鼻腔に思いのほか綿棒が挿入されるので恐々した手技でしたが、鈴木副院長から採取のポイントについて丁寧な解説があり、今後の採取に自信がついた様子でした。

まだまだ感染拡大に歯止めが効かない状況ですが、新型コロナウイルスの 1 日も早い収束を願うばかりです。今回の訓練を活かし、矛盾の無い検査結果と安心安全な医療を提供出来るよう更なる感染防止に努めて参ります。

研究検査科　臨床検査技師長：湯田　智子

★★★ 令和２年度 【功労者表彰】 ★★★

12月27日、令和2年度の功労者表彰が行われました。功労者表彰は、文化・経営面並びに患者サービス等の向上を図ることを目的として、いわき病院に多大な貢献をした個人、団体を表彰するもので、審査委員会において決定し本年度は下記の方々が受賞されました。

庶務係：加藤　智成

（職員）

看護師臨床工学技士	戸賀　和行さん 森　　正弘さん	QC手法について、受講した内容を分かりやすく院内伝達講習を開催した。
ボイラー技士長	小松　成光さん	設備などの相談をすると速やかに対応、相談に乗ってくれる。小さいことでも嫌な顔せずに真摯な対応してくれた。
看護部	大井　敦子さん	八雲病院の機能移転に伴う患者移送への協力と後方支援に尽力された。
看護部長	笹　小夜子さん	インターネットを用いた、看護師・院内職員向け e- ラーニングによる、個人学習システム導入に積極的役割を果たした。

（職員以外の部）

カウンセラー	河口　聖子様	令和2年1月より、いわき病院職員のメンタルサポート強化を目的に導入した。導入時より協力をいただき、1年間で延べ35名に実施し、離職防止に繋がった事例もある。

会長表彰受賞

昨年 11 月に第 46 回いわき市総合社会福祉大会が行われ、大会会長表彰を頂くことができました。この大会はいわき市といわき市社会福祉協議会が主催となり、市民一人ひとりが「自助」、「共助」について改めて考え、お互いが「助け合い、支え合う」関係づくりによる「誰もが住み慣れた地域で安全で安心して暮らし続けることができるまち　いわき」の実現のために開催されています。

昨年度は、玉川中学校で、医療・福祉についての出前講座や、クリスマス会ではバザーを担当し、病院の代表としていわき市社会福祉協議会に収益金を寄付するという活動をさせていただきました。

高齢者、障がいを持つ人、子どもなど世代や背景が異なるすべての人が共に支え合い生きる社会を実現するために、私たち医療従事者が自分たちの立場で何ができるのかを考えるきっかけになりました。今回の表彰は私一人の力ではありません。看護師、いわき病院の職員という立場があり、活動にするために多くの職員の方に助けていただいたおかげです。

患者さんや地域の方が、住み慣れた地域で安全で安心して暮らすことができるように、スタッフ一丸となって支えていけるように努力していきたいと思います。

第2病棟　副看護師長：齊藤　久美子

いわき病院の診療体制等について

- 診療科目　内科、脳神経内科、外科、脳神経外科、小児科（小児神経疾患）、リハビリテーション科
- 外来受付　8:30～11:30（ただし、急患につきましては電話にてご相談下さい。）
- 診療時間　8:30～17:15

外来担当医師診療日程表　【平成31年４月～】

区分		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	内科	診察室① 鈴木 診察室② 市原	診察室① 無量井(第2)	診察室① 鈴木 診察室② 齋		診察室③ 仙台医療センター
午前	脳神経内科	診察室③ 尾田宣仁	診察室③ 會田隆志	診察室③ 尾田宣仁	診察室① 関／會田 （交代制）	診察室① 関　晴朗
午前	外科				診察室② 田崎　博	
午後	脳神経内科専門外来（予約制）					
午後	神経難病 神経筋疾患 《診察室①》			（脳神経内科） 関　晴朗		
午後	小児神経外来（予約制）					
午後	小児神経外来 《診察室①》	（小児科） 柳沢俊郎				（小児科） 柳沢俊郎

■ お知らせ ■

◆患者相談窓口

患者さんやお見舞いの方などからの苦情・相談については、『患者相談窓口』と『ご意見箱』で対応しています。なお、皆様にお知らせした方が良い内容のものは、外来掲示板に掲示しています。

◆当院受診について

他の医療機関に通院中の方は、主治医の先生に当院地域医療連携室を通して診療予約をとって頂いた上で来院願います。

Iwaki
National Hospital

発行元　独立行政法人国立病院機構　いわき病院
National Hospital Organization Iwaki National Hospital
責任者　院長　関　晴朗
新所在地　〒971-8126　福島県いわき市小名浜野田字八合 88 番地 1
TEL　0246-88-7101　FAX　0246-88-7075
ホームページ　https://iwaki.hosp.go.jp/